

・冬至 今年は12月22日

冬至は二十四節気の一つで、太陽が最も低い位置を通過するため昼の長さが一年で最も短くなります。

北半球ではこの日が一年で最も日が短く、南半球では同じ日に昼が最も長くなります。

日付は年によって異なり例年12月21日か22日です。冬至を過ぎると再び太陽の力が少しづつ強くなることから、古くから「太陽が生まれ変わる日」として世界中で祝われてきました。日本では冬至は「一陽來復（いちようらいふく）」と言われ、悪いことが終わり良いことが巡ってくる節目と考えられています

YKKがM&Aで事業拡大、国内住宅市場の縮小が業界の再編促すか

相次ぐプロジェクトの中止や都心の分譲マンションの価格高騰など、建設費上昇の影響が建設業界に影を落とす。加えて、住宅市場の縮小が業界に再編圧力を強めている。国土交通省が発表した2025年9月の新設住宅着工戸数は6万3570戸で、前年同月比7.3%減。6カ月連続の減少だ。建設費の上昇に加え、少子高齢化に伴う人口減で、住宅市場に改善の要因は見当たらない。

厳しい市況の中、大きな一步を踏み出されたのがYKKだ。同社は25年11月17日、パナソニックホールディングス(HD)の子会社で住宅設備や建材の製造・販売を手掛けるパナソニックハウジングソリューションズ(以下PHS、大阪府門真市)を買収すると発表した。企業価値は2276億円と大口だ。

YKK傘下のYKKAPが強みとするサッシや外装材と、PHSの強みである内装材や住宅設備機器をワンストップで製造・販売できるようになる。25年11月17日の記者会見でYKKAPの樋脇秀会長は、「基礎などを除き、住宅に必要な建材・設備を7~8割カバーできる総合メーカーが誕生する」と力を込める。

ラインアップの充実に加え、販売網の共有などで強化を図る。両社が保有する計4053件の特許権(24年度末時点)を生かして商品開発力も高めていく。顧客との接点になる全国計89拠点(25年9月末時点)あるショールームなどの活用も欠かせない。

住宅設備・建材市場における両社の連結売上高は単純合算で1兆411億円(25年3月期)。35年度には売上高を1兆5000億円に伸ばして、業界トップで連結売上高が1兆5047億円(25年3月期)のLIXILに迫る企業規模への成長を目指す。

35年度の目標売上高から2社合算値を差し引いた約5000億円分については、「半分以上を海外事業で伸ばしたい」とYKKAPの樋脇会長は説明する。国内の住宅市場にはリフォーム事業の強化で対応し、海外展開に活路を見いだす考えだ。

・建設業界の再編へM&Aが加速するか

住宅市場の縮小を見越して、いち早くM&A(合併・買収)を活用して海外展開を強化したのは大和ハウス工業だ。同社は12年に準大手ゼネコンのフジタを買収。海外実績が豊富なフジタと連携することで住宅・マンション開発などの海外事業を拡大した。

その後、大和ハウスは売上高を約2兆円(12年度)から約4兆円超(22年度)へと急成長。24年度には約5兆4000億円まで伸ばした。さらに25年10月には、電気設備工事を手掛ける大手サブコンの住友電設へTOB(株式公開買い付け)を実施する発表。26年3月をめどに同社を完全子会社化する方針だ。

YKKも今回のM&Aで大きな成長を遂げられるのか。まずは足元の経営基盤を構築し、海外展開を強化することになるだろう。重要なのは、この後のかじ取りだ。海外で伸び代がある同業他社を傘下に加えたり、建築設計事務所と協業して住宅やホテルなどの設計・施工に乗り出したりする未来を妄想してしまう。あるいはIT系の企業やスタートアップを取り込み、販売の仕組みなどでDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進するのもありかもしれない。

25年11月17日の記者会見でPHSの山田昌司社長は、パナソニックHDの技術も活用した住宅の省エネ化やIoT(モノのインターネット)化に取り組む道を示した。建設業界が抱える大きな課題に対してYKKAPとPHSはどのような解決策を示すのか、今回のM&Aが業界再編を促す呼び水となるのかに注目したい。



元記事:日経XTECHより

くだらないことを考えて歩いているうちに「滑川」の信号だ。この信号の目の前が由比ヶ浜海岸、真っ暗な由比ヶ浜海岸の波打ち際を歩く。

波の音しか聞こえない、誰もいない、風が冷たい、由比ヶ浜海岸を独り占めしているような気分になる。波が打ち寄せて去っていく際は自分のエネルギーが海に吸い取られていくような気分にもなる。

稻村ヶ崎の手前で陸に上がり134号線の歩道を歩く。稻村ヶ崎公園着7時5分、ここで一服、辺りはもう明るい。海を臨むとサーファーが2~3人、寒そうだ。

稻村ヶ崎をあとにして江の島を目指す。

昔、この134号線に料金所があった。殆どの人はご存じないだろう、「行合橋」の手前、セブンイレブンの手前あたりだったような気がする。七里ヶ浜から少し歩くと街道沿いに「珊瑚礁」というレストランがある。夜は松明の炎が煌々と燃えていたのを覚えている。もう何十年も前の話だ、いまだに松明は燃えているのか?珊瑚礁の先に一番上の孫が通っていた高校がある。初孫だったので小さいときは「無責任」に可愛がったものだ。その孫たちも自分の世界を作りつつ、爺、婆から少しづつ距離をとっていく。これも成長の一環か、ちょっと寂しい気もする。

「小動」の信号まで来た。左手は腰越漁港、その先が江の島海岸だ。季節外れの海岸とあって、小さい子供二人が走り回っているだけ。その子供たちを両親が砂浜に腰をおろして見守っていた。ある意味この四人家族が江の島海岸を独占しているようであった。

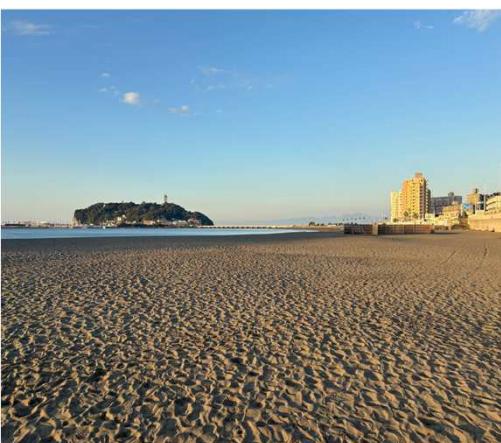
江ノ島弁天橋を渡り江の島上陸8時10分今日のウォーキングはここで終了。

「江の島神社」にお参りして、帰りは「湘南モノレール」で帰ろう。

第57回

三成 哲也
の

ウォーキング日誌



11月16日 鎌倉駅～由比ヶ浜～稻村ヶ崎～江の島

早朝5時の電車に乗り鎌倉へ。鎌倉駅着5時20分、ここ鎌倉駅から江の島を目指す。

外はまだ真っ暗だが少しづつ目が慣れて周りがうっすらと見えてくる。下馬の信号を過ぎて、まずは由比ヶ浜海岸を目指す。左手に鎌倉警察署、その手前に鎌倉女学院、名前の通り女子校だが先日「共学化」の新聞の記事を見た。そういうえば最近は共学になる高校が増えているようだ。この鎌倉女学院の校名を考えてみた。「女」を省いて「鎌倉学院」?鎌倉には「鎌倉学園」という男子校もあり、ちょっと紛らわしい気がする。